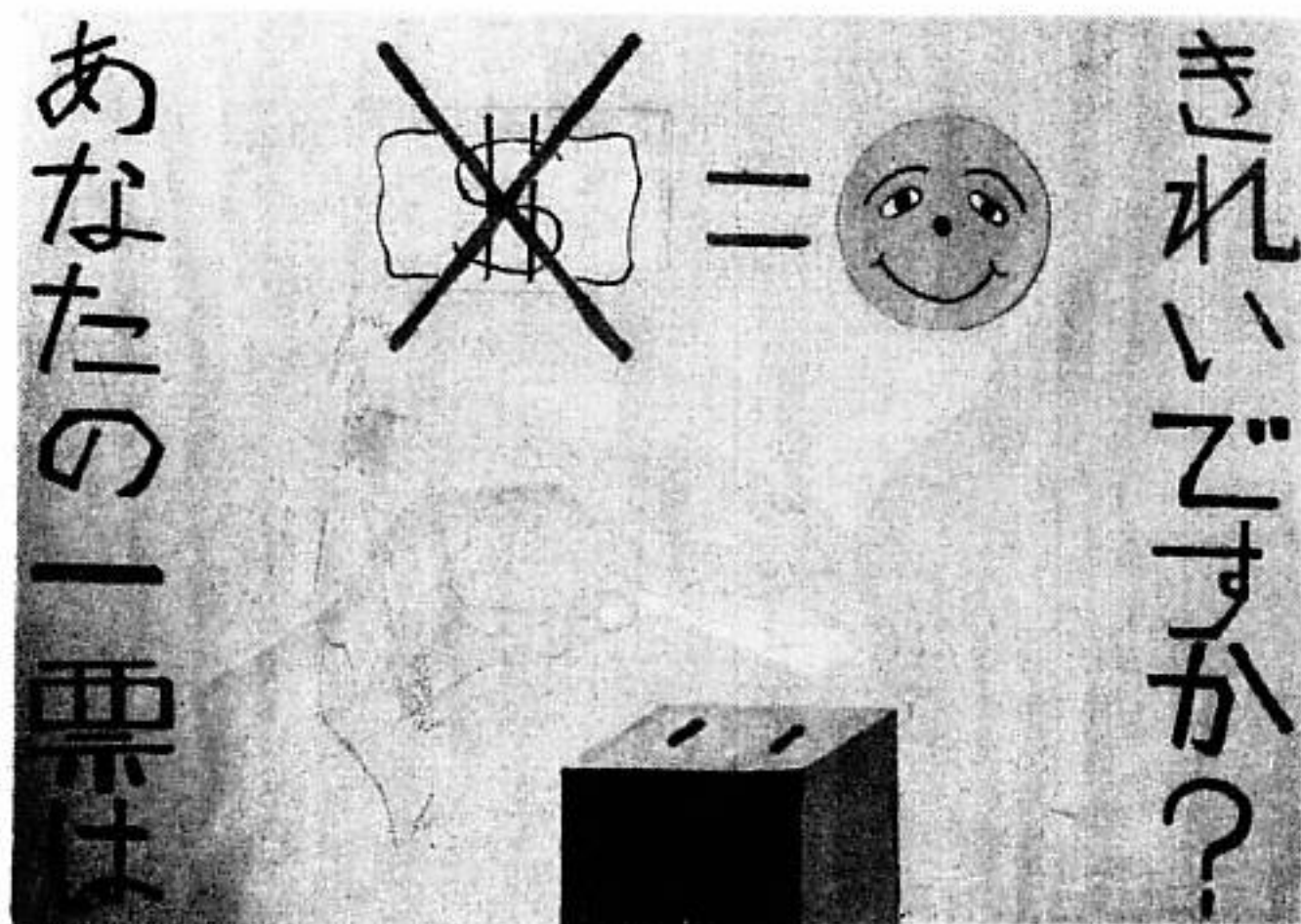


解放日は一切無料



## 知事・県議選 投票日は13日



東中3年 菊地由美子さんのポスター作品

### 6 投票所は繰り上げ

次の6投票所は、閉鎖時刻を他の投票所より1時間繰り上げ、午後五時で終了することにしていますので該当地区では注意がのぞまれています。

1時間繰り上げされ、午後5時に閉じられる投票所  
▷第三(袖山)▷第五(松沢)▷第七(祝沢)▷第八(高村)▷第十一(大台)▷第十三(杉森)

## こぞつて投票を

四月十三日は知事・県議選挙の日です。勢の中で行われる今回の選挙は、昭和五十年代の県勢発展方向の選択が迫られる極めて重要な意味を持っています。それだけに、町選挙管理委

員会では、有権者一人ひとりが公正な判断に立って投票に参加するよう呼びかけており、次の点に十分注意されたいと

しています。

### 知事は白、県議は薄黄色

今回の選挙は、知事と県議の二つの選挙が同時に行われるため、投票用紙が知事は白色、県議は薄黄色(クリーム色)に色分けされています。注意がのぞまれています。

### 転入・転出者の投票関係

最近転入した人や転出した人たちの選挙権や投票は次のようになります。

特に本町では、二つの選挙が同時に行われた場合に投票用



東中から146名

希望を胸いっぱい校舎を後に

三月十五日、数々の思い出を秘め、明日への希望に胸をふくらませた東中百四十六名の卒業生が、恩師や在校生、父兄たちの見送りをうけ懐しの校舎を巣立って行きました。卒業生の一人一人に言葉をかけ、卒業証書を手渡した佐藤校長は、式辞の中で「菊づくり菊見るときはカゲの人、菊根分けあとは自分の土で咲け」と吉川英治の言葉を引用し、常に報恩感謝の心を忘れず、努力を怠らないで社会のため役立つ人になってほしい」と最後の激励を与えました。

今年度の卒業生は、高校や各種学校への進学百十八名(80・8割)就職等が二十八名(19・2割)で、進学は全員が合格というめでたい門出になっています。

## 「朋楽荘」グッと低料金に

意見に基づき利用料改定

老人いこいの家「朋楽荘」は二月のオープン以来連日のように活用されていますが、当初に設定した利用料金が高すぎるのではないかと、町民や町政モニターから多くの意見が寄せられたため再検討の上次のようにグッと低料金に改定されました。

なお、これまで当初の料金で利用された方々には、改定料金との差額を精算の上お返しすることにしています。

この運動期間の重点事項として①火気取り扱い箇所、②防火用水の備えつけの励行の二点を掲げ、各家庭ごとに点検表を用い火の元点検を習慣づけるなどのほか子どもの火遊び防止、たき火の監視の徹底など防火の心を常に絶やさないよう、呼びかけています。

また、万一に備えバケツ一ぱいの水や風呂の水を捨てないでよく配慮のぞまれています。

ご芳志ありがとうございます  
宿老クへ金一封

本荘市に住む梅津和夫氏から「亡母(初代東由利村長、故梅津千代太郎氏夫人)が生前お世話になった宿地区老人クラブへ寄付します」という内容の添え書きとともに町長宛金一封が寄せられました。

町ではさっそく、同氏の指定にあった宿地区老人クラブへ届け感謝されました。

### 絶やすまい防火の心

火災予防運動6日から

雪消えとともに、最も火災の発生しやすい季節となります。県では四月六日から同十二日までを春季火災予防運動期間に定め、県民ひとり一人の火災予防思想の高揚をはかることにしています。

### 解放日は一切無料

老人解放日(月曜)は改定前と同じく一切が無料です。また、解放日以外でも老人クラブ員等が十人以上で利用する場合は室料を無料にすることにしており、せいぜい利用されるのぞまれています。



# 婦人会 成人病追放を学ぶ

## 最善策は早期発見

町婦人会蔵支部(佐藤リエ支部長)では、これまで毎年冬期に手芸や編物等の講習会を開催、自らの教養を高め地域の繁栄に役立つ婦人になることを目標に活動が続けて来ましたが、今年は趣向をかえ二回にわたって由利組合総合病院の小松寛治医師を招き、成人病予防に関する学習会を開催、その追放に立ち上がりました。

町では、母子保健の向上や成人病・結核などの予防に関する活動を行なうため、婦人会の学習会を企画した同支部の委員七十九名からなる保健推進委員会を組織、こうした活動に本腰を入れ始めていたとき、さっそく推進員らにも呼びかけ同支部の企画にあわせ合同で研修しました。

一回目の一月二十四日は約八十人、二回目の翌月二十四日は約七十人が会場となった蔵新田児童館に参集、終始熱心に学習しました。

## 電話 自動開式6月末に

### 加入数千五百台突破の見込み

本町の電話加入数は一千四百四十八台(三月末現在)で普及率九十四割を誇っています。今後さらに増設が予定されておき、ダイヤル自動式に切替えられる六月末までには一千五百台を突破するものと見られ、現在増設や自動化切替の作業が進められています。



真剣な表情でお互いの血圧を測定し合う婦人たち

昨年末、老方地内に完成した鉄筋コンクリートの電話交換機室には、一千七百台までの加入交換が可能とされるC-四六〇型という最新の大型交換機が設置され、開式に備えています。

現在、各加入世帯にはダイヤル式電話器の取り付け作業が行われていますが、これは六月に予定される自動開式以降でなければ使用できないものであり、開式後は現在使用中の電話機が回収されることになっていきます。

ダイヤル自動電話の開式後は、東由利電話交換局に局長

性に再認識がほしい」と訴えていました。

続いて、血圧計の操作や測定に習熟するため、小松医師に随行した同病院の看護婦や技師、それに町保健婦たちから血圧測定の実際について指導を受け、成人病予防に対する婦人の役割や責任へ自覚を新たにしています。

## 好評呼んだ学習会

町婦人会老方支部では、三月十一日湯出野児童館で開催した支部総会の際、電話局の職員を招いて「正しい電話のかけ方」など、ダイヤル化に備える学習会を開き、会員たちから好評を呼びました。

同電話局では、自動化に伴う学習会の開催を希望する団体等は、老方郵便局を通じて申込みればできるだけ職員を派遣したいとしています。



急ピッチの電話自動化工事

番号にかかわると言われます。(新しい加入番号は近く電話局から発表される予定です)

## 今年こそ無事故無違反を

交通事故の絶滅に取り組んでいる町交通指導隊(大沼武且隊長)では、昭和四十九年度の町内における交通事故の原因を分析、五十年年度こそ無事故、無違反を達成しようと強く訴えています。

それによると、四十九年度

## 夏型出かせぎ 必ず職安経由で

好転のきざしが見えない不況を反映して、夏型出かせぎの求人はいよいよ著しく減少するものと見られ、求人があっても就業条件は劣悪なものが多くなるものと懸念されています。

## 慶弔だより

2月21日〜3月25日

○誕生 おすこやかに

- 佐藤佳彦 中通 孝一郎二男
- 阿部正輝 横渡 正 長男
- 阿部淳子 蔵 善孝 長女
- 遠藤栄美子 小倉 正栄長女
- 佐々木千幸 大琴 雅広二女
- 小松玲子 須郷田 久賢二女
- 遠藤淳子 小倉 松悦 長女
- 小松 真 黒沢 隆 二男
- 佐々木雅史 大琴日出夫三男
- 八島康則 黒淵 敏 長男
- 阿部浩樹 大台 正 長男
- 長谷山千穂 下通 誠明長女

## ○お悔み申し上げます

- 鈴木文雄 袖山 32歳
- 佐藤節蔵 松柴 74歳
- 小松リエ 下通 78歳
- 大場イサヲ 久保 67歳
- 相場由吉 舟木 67歳

## ◆東由利駐在所だより◆ 園児を守ろう

入園や入学のシーズンですが、例年この時期に通園通学に慣れない園児や児童が輪禍にあっています。

「訂正」 三月号慶弔だより 出生欄で小松美香 功 長男とあるは長女の誤りにつきお詫びの上訂正いたします。

飲酒運転では、他町村で検挙(逮捕)された人もかなりおり、このために町民が納めた罰金は百万円を下らないと見られています。

同指導隊では、人間生活を根底から破壊する交通事故の絶滅をはかるため、町民の一人一人が十分自覚して、ムダな罰金などを納めないようにしてほしいと、強くのぞんで



投書「感謝の言葉を」から考える

日本人が「ありがとう」「すみません」の言葉を、アメリカ人に並に自然に使えるようになったら、その人間関係は、いまよりもっともっと和やかになるだろう。

これは、町報二月号に小松順之助氏から寄稿いただいた掲載した渡米研修感想文の一節ですが、その後、本町の主婦(30歳)が「嫁として」と、家族間でも感謝の言葉をかけ合うべきでないだろうか」とする趣旨で秋田魁新報「読者の声」欄に寄せた意見が、県内の主婦たちから大きな反響を呼びました。

新聞に掲載された主婦の意見を要約したものは別掲のとおりですが、これに対して寄せられた意見は、おしなべて家族間でも感謝や思いやりの言葉をかけ合うべきだ」とする意見であったと言われます。その中から、新聞誌上に掲載された二、三を紹介し、この問題をみんなで考えてみたいと思います。

感謝の言葉 人間に必要な

最低のエチケット

「嫁がしゅうとの世話をするの当然なら、しゅうとも嫁にやさしくして感謝といったわりの言葉をかけ合うのが当然。嫁としゅうとに限らず、好意に対して礼を言い合うの

は、人間として必要な最低のエチケットだと思います。(森吉町 主婦 34歳)

「ま心」こそ源泉

「一分のスキもなく嫁のつとめを果たしていることは立派だけれども、しゅうとめ側の側からすると意地っばりでは

ない気のない嫁」と見られるは、人間として必要な最低のエチケットだと思います。(森吉町 主婦 34歳)

家庭円満の秘けつは

いたわりと感謝の心

「ま心」こそ源泉  
「一分のスキもなく嫁のつとめを果たしていることは立派だけれども、しゅうとめ側の側からすると意地っばりでは

いものです。ちょっとしたことで「ありがとう」「すみません」の言葉が、おかしなもので、もっと世話をした自分も嫁に対してはどんな場合でも、感謝の言葉を忘れないと思っています。(天王町 主婦 55歳)

この機会に、町民すべてが思いやりの言葉や感謝の言葉に欠けていないか自省し、よりよい人間関係、和やかな人間関係樹立のために心を新たにしたいものです。

このことは、意見を寄せた主婦一人の問題ではなく、町民全体、いや口が重いとされる東北人、ひいては日本人全体に関わる問題でな

この機会に、町民すべてが思いやりの言葉や感謝の言葉に欠けていないか自省し、よりよい人間関係、和やかな人間関係樹立のために心を新たにしたいものです。

投書の要旨

「感謝の言葉を」

嫁いで五年、家族や周囲の人たちと親しくなろうと一生懸命がんばって来ましたが、これまでも「ありがとう」と言ってきた。来た当時は元気があったが、義父母も一年後には病床にたいてしまいました。嫁いだからには、当然とばかり、私

「私の嫁時代は、何か嫌なことがあっても口に出しては言えず、はね返るほど手荒に戸を締めて心のうつぶんを

長所ほめ合いゆずり合う



笑顔は常に絶やしたくないものです

まねたい生活信条

家族のそれぞれが、お互い相手の長所をほめあい、感謝の気持ちを持って決して偉ぶらない会話、しかもそれがわざとらしくもないければ、少しもギザに聞こえないところに佐藤さん一家の、比類ないと言われる「円満」の秘けつが隠されているようです。

突然の係の来訪目的を知って戸惑い気味の佐藤さん一家は「いまはどこの家庭もそれぞれ円満です。うちだけが特別ではありませぬ」と語りながら、撮影を承諾してくれたほか、奥さんのトクヨさん(56歳)が次のように語ってくれました。

晴らしたりしたものです。ところが我が家に嫁いで十五年にもなるフミ子(長男潔さんの奥さん)は、これまでただの一度も家族に嫌な顔を見せたり態度に表したことがありません。